

日野市生物多様性地域戦略 施策体系(案)

基本理念			
①人と生きものが主役になって、ともに水とみどりを未来に引き継ぐまち、日野 ②魅力ある水とみどりを継承し、人と生きものが共に暮らせるまち、日野			
基本方針	目標	施策(取り組み)	
人々の関心を高める (生物多様性の関心を高める)	1.生物多様性の普及啓発 カワセミハウスの活用やイベントなど、様々な取り組みで市民の生物多様性への理解度をうながします	1-1.カワセミハウスを活用する カワセミハウスを生物多様性に関わる情報発信・交流の拠点として活用します	
		1-2.親子で参加できるイベントを実施する 子どもが親を呼んで参加できるような、異なる世代が参加できるイベントを実施します	
		1-3.「生きものマップ」を活用する 生きものマップを活用し、日野市の生きものの現状を把握します	
		1-4.「生きもの検定」を実施する 市民の生きものの理解度向上を目指し、難易度別の生きもの検定を実施します	
	2.環境教育の推進 生物多様性の大切さを理解し、水とみどりを大切に思う心を持った「ひのっ子」を育てます	2-1.学校教育で生物多様性を学習する 学校の教育で、日野市の時代背景や土地利用の変化が自然環境にどのような影響を及ぼしてきたかを学びます	
		2-2.小学校への出前授業を行う 生きものに触れ合う機会や自然環境を学ぶ機会を出前授業で提供します	
		2-3.学校で農業体験を実施する 義務教育の中で農業を体験することで、日野市の自然の恵みを体感します	
		2-4.全小学校でのビオトープづくりを推進する 市内全ての小学校でビオトープをとおして生態系の学習をする	
人と自然の関わりをつくる	3.身近な自然体験の場を維持 市民の誰もが自然体験を経験できるように、身近に豊かな自然環境を残します	3-1.子どもが遊べる自然環境をつくる 次世代を担う子どもたちがこれまでと変わらずに、山や川で遊び、楽しみを感じられるような環境づくりを行います	
		3-2.身近な自然の地域格差を解消する 台地や丘陵に住む市民が河川や用水の恵みを感じられるように、イベント等で河川や用水に触れられるように機会提供を行います	
		3-3.日常でできる自然体験の機会をつくる ウォーキングコースを用水沿いに設けることで、身近な自然に触れる機会を運動の際につくります	
	4.暮らしに取り入れる生物多様性 「食」とおとして豊かな自然の恵みを感じられる生活を、多様な主体と共に実現します	4-1.農と共存するまちを形成する 相続による土地の分断や後継者不足を背景とする農地の減少を防ぐため、農地保全のための人材育成を行います	
		4-2.市民農園を推進する 市民はもとより、市外からも広く農地を使いたい人を募集して、農地を貸し出す仕組みをつくります	
		4-3.日野産野菜を普及させる 直売所を増やしたり、学校給食に提供し、普及と共に流通体制を構築します	
		4-4.食育で生物多様性の恩恵を理解する 食べ物生きもの由来であり、自然の恵みであることを理解し、感謝の気持ちを育みます	
	5.新たな連携やコミュニティの創出 日野市の恵まれた自然をとおして、人のつながりを生み、人が集まる場をつくります	5-1.地元市民と転入者の接点をつくる 住宅都市である日野市は転入してくる人々が多いため、身近な自然を活かして地元と転入者を結びつけます	
		5-2.多摩動物公園と連携する 都心からも人の集まる多摩動物園を拠点の一つとして、新しいコミュニティづくりに活かします	
		5-3.事業者と連携した活動を展開する 企業の事業活動に結び付いた生物多様性の活動を、市民の力でサポートします	
		5-4.広域の自治体や関連団体と連携する 多摩丘陵に関わる周辺自治体や、多摩川に関わる自治体や団体と連携しながら、より良い自然環境づくりの検討するための仕組みづくりを行います	
日野らしい自然を守り育てる	6.多様な地形が生む生態系の保全 台地、丘陵、低地、河川の多様な地形が育んだ日野市の生態系を、壊すことなく守ります	6-1.広域的なエコロジカルネットワークを形成する 市外との連携も意識したうえで、広域的な視点に立って生態系に配慮した環境整備を実施します	
		6-2.草地環境を創出する 多摩丘陵で個体数の減っているノウサギの生息環境を保全するために、市内に草地環境を創出します	
	7.多様なみどりの保全 崖線や丘陵地の樹林地や、畑や水田の農地などの多様なみどりをを、これ以上減らすことなく守り増やしていきます	7-1.基金を活用して樹林を保全する 斜面林を守り残すための仕組みとして、基金をつくり保全を推進します	
		7-2.住宅地の良質な緑を創出する 都市域の住宅地が、パッチ上に繋がるエコロジカルネットワークとして機能するように、緑の量と質を向上させます	
		7-3.公園の質を高めるための維持管理作業 身近な生きものの生育・生息地を確保するために、生物多様性に配慮した維持管理作業を公園内で行います	
		7-4.伝統的なみどりを保全する 巨樹・巨木、屋敷林、榎ぐね、社寺林など、日野市の特徴的・伝統的なみどりを残し、保全します	
		7-5.農地の多面的利用を図る 農地は日野市らしい景観を形成し、生きものの生育・生息空間でもあるため、多面的な利用により新たな価値を生み出します	
		7-6.日野らしい貴重な環境を保全する 市有地化が予定されている真堂が谷戸を、市民の手で保全・整備します	
	8.水と親しむ文化づくり 用水や湧水の新しい活用方法を検討し、時代に合わせた水と親しむ文化をつくります	8-1.多摩川・浅川の自然を保全する 多くの生きものが生育・生息する多摩川周辺が河川工事で破壊されないように、日野市の重要な環境軸として保全します	
		8-2.湧水の水量確保 雨水の地下浸透を促進することにより、湧水の水量を確保します	
		8-3.生態系豊かな水辺づくり 用水を生きものにとって住みやすい場所とするために、水流に変化をつけ、逃げ場となる多孔質な空間を創出します	
		8-4.観光資源として用水を活用する 年間通水により魚類や水草の生育する環境用水を観光資源として、水の豊かな日野市の象徴として活用します	
		8-5.浅川の水量の確保を検討・調査する 浅川の水量が減っている現状を把握し、検討委員会を設置する	
	9.市民参画による環境の管理・整備 丘陵の雑木林や市街地の用水といった、日野市ならではの環境を市民の手で管理・整備します	9-1.ボランティアによる里山管理を行う 市民ボランティアの力を活用して、日野市の里山を健全な状態に管理します	
		9-2.市民参画による用水の維持管理を行う 用水の維持管理の必要性をより広く市民に伝え、市民の力できれいな用水を維持します	
		9-3.生きもの豊かな庭づくりを行う 家庭で出来る取り組みをとおして、住宅地を生物多様性に貢献できる環境にします	
		9-4.生きもののための環境をみんなでつくる 市民自らが環境整備に関わることで、自然に対する理解を深め、土地への愛着を深めます	
		9-5.雑木林の保全体制を確立する 市民・行政とで保全体制をつくります	
	10.外来種・有害鳥獣の管理 日野市で特に問題となっている外来種や有害鳥獣を選定し、市民の手で管理する仕組みづくりを行います	10-1.河川に拡がる侵略的外来生物の駆除の検討をする ハリエンジュやシナダレスズメガヤといった、侵略的外来生物の駆除等の対策を検討していきます	
		10-2.有害鳥獣の被害低減を図る ハクビシンやアライグマ等といった有害鳥獣による農作物(果樹園含む)の被害を低減させます	
※黄色は既存計画に含まれない新しい取り組み			